

第2回札幌市学校適正配置検討懇談会資料

	資 料 名	資料ページ
資料1	札幌市教育推進計画について	1
資料2-1	他の政令指定都市等の適正配置計画策定状況	2
資料2-2	学校適正配置他都市の事例	3
資料3	札幌市学校適正配置検討懇談会スケジュール	4
資料4	札幌市学校適正規模検討懇談会意見提言 (平成12年)ダイジェスト	5
資料5	資生館小学校アンケートについて	7

札幌市教育推進計画について

1 計画の目的

平成 14 年度から学校週 5 日制が完全実施され、現行の学習指導要領が全面実施されるなど、教育改革へ向けた取組が行われている一方で、学習内容の削減や授業時数の縮減等が、子どもたちの学力に及ぼす影響に対する保護者の不安が大きくなっており、また、この 10 年間で急速に不登校児童生徒数が増加するなど、教育に関する課題が山積しています。

また、札幌市では、都市化や核家族化が進行する中で、地域の連帯意識が低下し、家庭や地域が従来のように十分な教育力を発揮できない状況にあるなど、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化しています。

このような社会の変化に対応し、21 世紀の札幌市を担う子どもたち一人一人の個性や特性を伸ばすとともに、学校、家庭、地域が連携した教育改革を推進するため、札幌市教育推進計画を策定しました。

2 計画の対象

主に義務教育期間における小学生、中学生を対象としています。

3 計画の期間

平成 16 年度から 25 年度までの 10 年間を計画期間としています。

4 計画の内容

札幌市教育の現状と課題を踏まえ、各課題に対応できる具体的な施策として、子どもたちの知・徳・体のはぐくみと、それらを支える新たな教育システムの 4 つの柱を掲げ、合計 60 の教育改革プログラムを掲載しています。

5 学校規模の適正化

新たな教育システムの中に、教育環境の整備を掲げ、その中で、子どもたちが一定規模の集団の中で、多くの友達との関わりを通して社会性や協調性、連帯性を培いながら学ぶことができる環境づくりを進める【学校規模の適正化の推進】を教育改革プログラムの一つとして掲載しています。

【学校規模の適正化の推進】

学校の小規模化が進むと、クラス替えができないことによる人間関係の固定化や、配置教員の減少による学校行事の活動内容の制約等、教育効果や学校運営に影響を及ぼす可能性があることから、通学区域の見直しや学校の適正配置等、全市的な観点から学校規模の適正化を推進するための取組を行います。

※ 札幌市教育推進計画は下記の教育委員会ホームページでごらんいただけます。

<http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/kyoikukeikaku/main.html>

他の政令指定都市等の適正配置計画策定状況

都市名	適正配置計画	備 考
仙台市	策定検討中	過疎地域の統合は実施済み、全市的な適正配置について検討開始
さいたま市	○	過大規模校の解消(新設校)
千葉市	策定検討中	ただし、小規模5校の統合方針は発表済み
川崎市	○	H15.12基本方針、統合検討対象の7地区と校名発表
横浜市	○	H15.12基本方針、小規模3地区に地域検討委員会設置
名古屋市	策定検討中	ただし、H14.4 3小を統合
京都市	○	S63から適正配置実施、10校統合を統合により廃校
大阪市	○	S56適正配置審議会設置、都心3区の小規模校を統合
神戸市	○	H14.4 2小を統合
広島市	策定検討中	通学区の弾力化を中心に検討中
福岡市	未	ただしH10.4 4小を統合
北九州市	○	H15.4 2小を統合。今後も継続して統合を行う予定

東京23区	適正配置計画	備 考
千代田区	○	H17.4 3中を1中に統合予定
中央区	○	
港区	○	H16.4 2小を統合、H元～H13まで10校統合済
新宿区	○	8小・4中を4小・2中に統合、2小を閉校、今後3小4中が対象
文京区	未	ただし、H10.4 2小の統合。2中の統合
台東区	○	H12.7基本方針制定
墨田区	策定検討中	ただし、過去4件統合あり、H17.4 2小を統合
江東区	未	ただし統合実績はある。
品川区	未	
目黒区	○	
大田区	○	H14.4 5小を3小に統合、H17.4 2小を統合予定
世田谷区	○	H16.4 2中を統合
渋谷区	未	ただし、H9.4 3小を1小に、2中を1中に統合
中野区	策定検討中	今年度中に計画策定の予定
杉並区	策定検討中	H16.6基本方針(素案)発表
豊島区	○	H9-H18 小11を5校に統合、中9校を4校に統合
北区	策定検討中	H7小4校を2校へ統合、H14小9校を5校に統合
荒川区	未	
板橋区	○	小4校を2校へ統合
練馬区	策定検討中	
足立区	○	
葛飾区	未	
江戸川区	未	

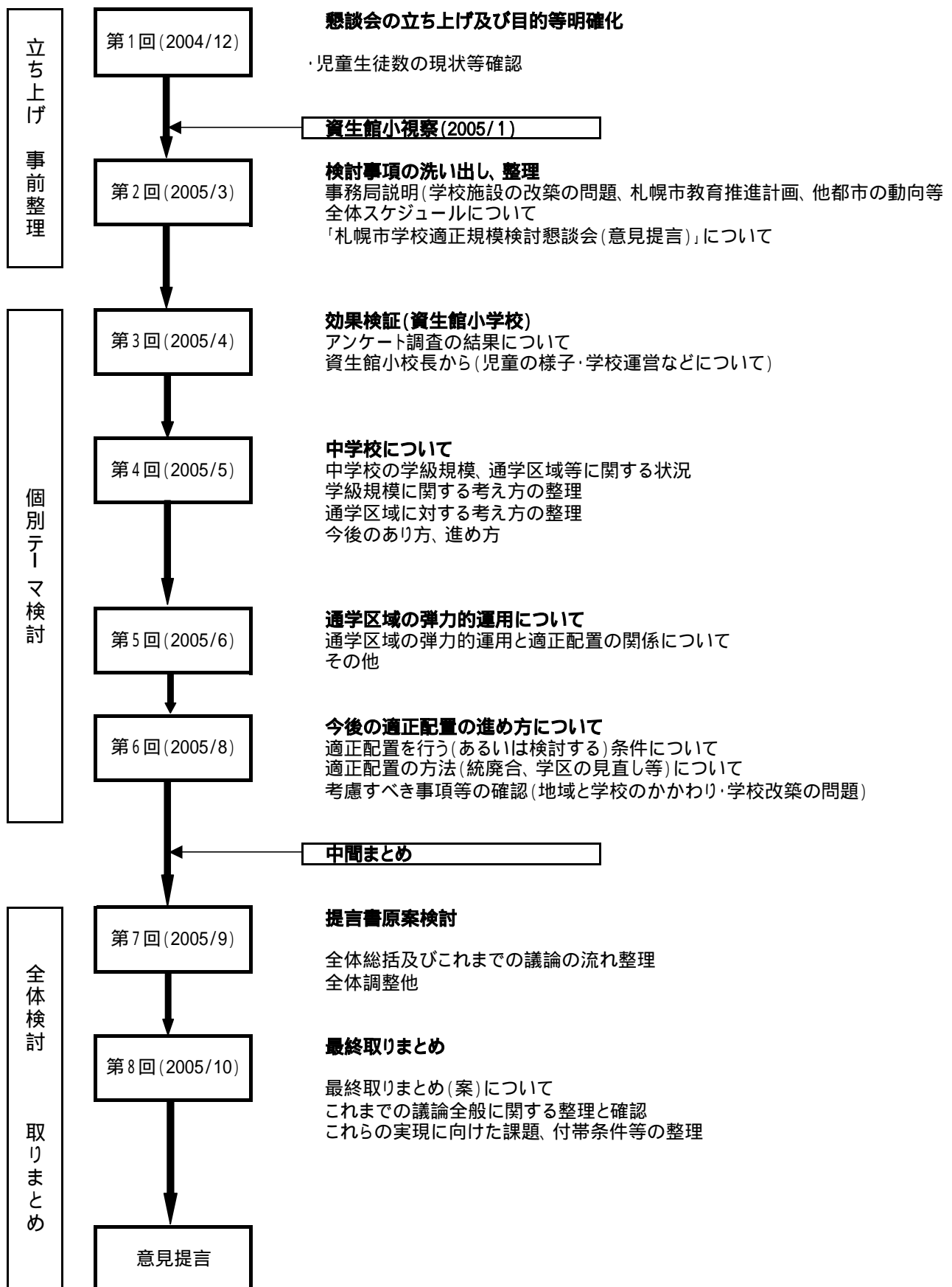
各都市ホームページ等により調査

学校適正配置 他都市の事例

2005/1/31-2/2 調査

調査項目	横浜市	豊島区	多摩市
適正配置検討懇談会	H14.11～H15.3	H2.6～H4.4	H3～H7Iにかけて一旦検討 H15.7から再度検討懇談会を立ち上げ検討中
適正配置計画策定期	H15.12策定	H9.1策定	H5 第1次計画策定 H18第2次計画策定 予定
事業実施	H16～ 3地区で検討開始	H9から事業を開始しH18に完了予定	H6～H12(第1次事業実施済み) H19～第2次事業実施予定
児童生徒の将来・長期推計	6年先まで	6年先まで(東京23区は都が行う)	6年先まで
適正規模の考え方	小 12～24学級 中 12～24学級	小 12～18学級 中 9～18学級	小 12～18学級 中 12～18学級
適正配置地域の条件	11学級以下の小学校又は8学級以下の中学校が隣接する地域	適正規模に近づくように統合対象校を選択し、適正配置事業を行った。	小～1学年60人、中～1学年105人を下回ったら小規模化の前兆として検討開始
通学距離のめやす	小 2km 中 3km	小 1km(20分) 中 1.5km(20分)	学校選択制を採用しているため、通学距離等のめやすは定めていない。
統廃合の実績(対象校)	未	小 対象11校を統合し5校 中 対象9校を統合し4校	小 対象8校を統合し4校 中 対象4校を統合し2校
統合にあたり、新校舎を建設したか否か	現在検討中の3地区については既存校舎を改修し使用予定	2校を新築した以外は既存校舎を改修使用	すべて既存校舎を改修使用
少人数学級	1年生の1部で35人学級実施	40人で学級編成	40人で学級編成
学校選択制	未定	H13～ 隣接校選択制導入	H15～ 全市自由選択制導入
その他			

札幌市学校適正配置検討懇談会スケジュール



I 学校の適正規模		懇談会 開催回
1 学校規模のあり方を考える視点		
1) 子どもの教育人格形成からの視点		
個性・社会性	集団生活を通じて、個性を磨くことや社会性を身につけることなど、様々な教育効果は、一定以上の規模の集団の中で学び、生活していくことによって、より高められる。	③
クラス替え	固定しがちな人間関係に変化を与えるため、新しい成長の機会を得るためなど、効果的なクラス替えが可能となるような学級規模が必要である。	
帰属意識・集団活動	帰属意識や連帯感を持ち全校的な人間関係を育むためには一定以下の規模が望ましい。また、一体感のある充実した集団活動を展開する上では、過小・過大な学級規模は避ける必要がある。	
教員とのふれあい	子どもの潜在的な能力を伸ばしていくためには、様々な個性を持つ多くの教員とふれあうことのできる学校規模が必要である。	
部活動	子どもたちの興味・関心に応じた選択肢のある多様な部活動を成り立たせるためには一定以上の学校規模が必要である。	
個性に応じた学習指導	生徒の個性に応じた学習指導が適宜受けられるような教員数を確保できる学校規模を保つことが望ましい。	
2) 学級規模からの視点		
30人学級	30人学級の導入のほか、弾力的な学級編成は今後の具体的な検討項目であるが、現状では、1クラスの平均人数が32人であり、30人学級の導入は中長期的に検討すべき。	⑤
3) 指導体制からの視点		
教育内容の変化への対応	新しい学習指導要領など、今後の教育内容の変化に対応していくためには、十分な数の教員の確保が可能となる学校規模が望まれる。	③
教員の協力	小学校において、同学年の担任教員が協力したり、良い刺激を与え合う効果を考慮すると、1学年3～4学級が望ましい。	
教育目標の共通理解	学校の教育目標をすべての教員が共通理解し、より充実した教育活動を行うためには、教員数を一定以下にとどめておくことが望ましい。	
中学校における学習指導・生徒指導	中学校では5教科について一人の教員が3学年にわたって対応することは困難と考えられるので、一定以上の学校規模が望まれる。充実した生徒指導を行なえる学校規模を考えることが望ましい。	
4) 新学習指導要領からの視点		
人間性・社会性の育成	新学習指導要領のねらいの一つに「豊かな人間性や社会性の育成」があるので、規模の検討についてはこの点も十分考慮する必要がある。	-
総合的な学習の時間・選択教科	総合的な学習の時間や中学校の選択教科において、多様な学習や児童生徒の興味関心の多様化に対応できる適切な数の教員の確保が可能な学級規模があることが望ましい。	
5) 地域とのかかわりからの視点		
地域との連携	学校と地域の連携を強め、地域の教育力を生かしていくことに配慮する必要がある。	⑥
2 小学校における適正な学校規模		③
1) 小学校における適正な学校規模の考え方		
子どもの教育環境に関して	効果的なクラス替えが可能となるよう1学年で3～4学級、少なくとも2学級あることが望ましい。6学級以下の学校は改善が望まれる。	
学校の指導体制に関して	教員が相談・研究し教育効果を向上していくためには、1学年3～4学級程度の規模が必要である。	
総合的な学習の時間に関して	学年としての計画立案、実行が可能となる、1学年3学級以上の規模が望ましく、総合的な学習の時間に対応した教室の数と質が確保できる適切な学校規模が必要である。	
地域とのかかわりに関して	地域との連携を可能とし、その教育力を生かすことができる学校規模が望ましい。	
2) 小学校における適正な学校規模		
【数値的なまとめ】	全校で18～24学級の学校規模が適正であり、少なくとも12学級以上の規模が必要であると考えられる。また、6学級以下の過小規模校については早期に改善が図られることが望まれる。	
3 中学校における適正な学校規模		④
1) 中学校における適正な学校規模の考え方		
子どもの教育環境に関して	一体感ある充実した集団活動を展開する上では、過小規模校(6学級以下)や過大規模校(25学級以上)は避けるべきである。	
学校の指導体制に関して	過小規模校では、5教科の各担当が3学年を通じて対応することになるので、過重な負担を避けることや、指導の充実のためにも改善が望まれる。	
新学習指導要領に関して	総合的な学習の時間及び選択教科に対応した教室の数と質が確保できる適切な学校の規模が必要である。	
地域とのかかわりに関して	地域との連携を可能とし、地域の教育力を生かすことができる適切な学校規模が望ましい。	
2) 中学校における適正な学校規模		
【数値的なまとめ】	適正規模は全校で12～24学級の範囲と考えられるが、引き続き検討を行う必要がある。	

学校の適正配置	
1 学校配置のあり方	
1) 学校適正配置の視点	
通学区域からの視点	適正な学校規模の確保を前提とした、望ましい通学区域についての考え方を構築する必要がある。子どもたちの生活や地域とのつながりなどを考慮する必要がある。
学校と地域の関係からの視点	学校の適正配置を契機として、学校と地域とのより一層望ましい関係を検討していく必要がある。
2) 学校適正配置を検討すべき地域	
	札幌市内では、人口空洞化の進む都心部 人口の減少傾向が見られる郊外部の旧宅地造成地区 市街化区域の縁辺部(山間部等)などに、学校の適正規模を検討すべき地域が見受けられる。特に、12学級を大きく下回る学校が隣接し、また老朽化が著しい学校を含む都心部については、速やかに学校の適正規模化を行う必要がある。
3) 学校適正配置の方法	
	通学区域の変更、統廃合が考えられる。通学区域の弾力的運用を行い特認校化を行うことは困難である。 特色ある教育活動を行うことはすべての学校で可能であるので、単に特色があるという視点のみで小規模校を特認校化することは困難である。
(2) 通学区域の考え方	
1) 基本的な考え方	
検討の方向性	通学区域の持つ意味を十分考慮するとともに、学校と地域のかかわりなど、より広い視点から通学区域を検討する。
通学区域のとらえ方	子どもたちの交友関係や遊び場など、生活の大半は通学区域にある。また、通学区域は、設定以来、地域の基盤となってきたことを念頭に置く。
2) 通学区域設定の課題	
通学距離	市内通学距離は全般的に短い。適正規模化を図る場合、通学上の安全性には十分な配慮が必要。
主要幹線道路	地域ごと状況が異なるが、適正な学校規模の確保を前提とし、主要幹線道路という理由のみによる校区の分断を避ける配慮が望まれる。
行政区界	適正な学校規模が確保される範囲で行政区界と一致した通学区域を設定する配慮が望まれる。
町内会区域との整合性	適正な学校規模を確保した上で、町内会区域との整合性を持った通学区域を設定することが望まれる。
中学校区との関係	中学校の適正配置を進める場合は、小学校区との整合性についても配慮することが望ましいと考えられる。
通学路・子どもの生活領域との関係	適正配置において通学区域を設定する際には、具体的な通学路を想定しつつ検討することが望ましい。
市街化区域縁辺部(山間部等)について	適正な通学距離を上回る恐れもあり、適正配置は困難であると考えられる。
3) 通学距離(時間)延長に伴う課題	
通学距離延長への対応策	文部省の示す通学距離(4km以内)を超える場合には、スクールバスの導入についても選択肢の一つとして検討する必要がある。
安全性の確保	交通安全施設の整備や交通安全指導などの対策を重視する必要がある。
(3) 学校と地域の考え方	
1) 基本的な考え方	
地域の教育力の維持・向上	地域の教育力の維持・向上とともに、学校と地域との連携・協力を一層強める必要があると考えられる。
地域の拠点としての学校の役割	地域における生涯学習意欲の高まりや、防災に対する関心の高まりに対しても、学校の果たすべき役割は大きいと考えられる。
2) 学校と地域との連携	
地域と子どもたち	子どもたちの多様な交流や経験の機会が限られている状況は、豊かな人間性の醸成や人格形成の面で問題があると考えられていることから、改善が望まれる。
地域の教育力	多様な人々と交流する機会を積極的に創出し、地域の教育力を醸成していく必要がある。
学校と地域との連携に向けて	学校は開かれた学校づくりを目指し相互の理解が深まるよう努力することが望まれる。学校を活用したコミュニティの維持についても検討していく必要があるといえる。
3) 学校と地域との連携を強める具体的方策	
学校と地域の人々との連携	地域の人々による学校支援ボランティア、学校施設を利用した生涯学習、複合化された学校施設での活動、地域の人々が利用しやすい校内環境の整備、学校教育に対する地域の人々の理解
地域における子どもたち	学外における学習と地域の人々による指導、社会体験学習の場の積極的な提供、子どもたちの地域清掃活動・福祉活動等、通学路における防犯を支援する地域の仕組み

資生館小学校アンケートについて

1 調査の概要

(1) 目的

統合による児童の様子の変化及び学校運営等について調査を行い、今後の学校適正配置事業の参考とする。

(2) 対象

ア 資生館小学校現2年生～6年生（抽出：各学年1クラス）

イ 資生館小学校教員

(3) 時期

平成17年3月上旬

(2) 方法

別紙アンケート用紙により調査を行う。

(3) 調査主体

教育委員会総務部（配置計画担当課）及び学校教育部（指導担当課）

2 集計結果等

(1) 集計 集計は総務部配置計画担当課で行う。

(2) 集計結果の公表 集計結果については、資生館小学校教職員及び保護者に配布するほか、適正配置検討懇談会の配布資料とし、教育委員会ホームページにおいて公表する。

がっこうとうごう かん じどうよう 学校統合に関するアンケート（児童用）

このアンケートは、小さい学校から大きな学校に変わったことによる児童のみ
なさんの様子について調べるためのアンケートです。

質問は1番から9番まであります。質問を読んで、自分の思ったところに○
をつけてください。

意味のわからないところは、○をつけなくてもいいです。

その他わからないところがあれば先生に聞いてください。

質問1 新たな学校（名前も含めて）に慣れましたか？ 次の中からあてはまる
ものひとつに○をつけてください。

ア. 慣れた。

イ. 少し慣れた。

ウ. まだ慣れていない。

質問2 大きな学校になって人数が増えましたが、そのことについてどう思い
ますか？ 次の中からあてはまるものひとつに○をつけてください。

ア. 人数が増えてよかった。

イ. 人数が少ない方がよかった。

ウ. 今までと変わらない。

エ. その他（ ）

質問3 教室の様子は小さい学校のとくらべて、変化がありましたか？ 次
の中からあてはまるものぜんぶに○をつけてください。

ア. 教室がにぎやかになってよかった。

イ. 授業中さわがしくなった。

ウ. 意見がまとまりにくくなった。

エ. 今までとかわらない。

オ. その他（ ）

質問4 ^{しつもん} 昼休みなど、^{ひるやす} 休み時間の^{やす} 過ごし方^{じかん す} で、^{かた} 変化^{へんか} がありましたか？ ^{つぎ} 次の^{なか} 中から
あてはまるものぜんぶに○をつけてください。

ア. ^{あそ} 遊び^{あいて} 相手^ふ が増えた。

イ. ^{あそ} 遊びの^{しゅるい} 種類^ふ が増えた。

ウ. ^{いけん} 意見^ふ がまとまりにくくなった。

エ. ^{いま} 今^か までと^ふ 変わらない。

オ. その他 ()

質問5 ^{しつもん} 運動会や^{うんどうかい} 学芸発表会^{がくげいはっぴょうかい} などの^{ぎょうじ} 行事^{へんか} に、^{つぎ} 変化^{なか} がありましたか？ 次の^{なか} 中から
あてはまるものぜんぶに○をつけてください。

ア. ^{にんずう} 人数^ふ が増えて^{ぎょうじ} 行事^{はくりよく} に^ふ 迫^{たの} 力が^ふ でした。

イ. ^{ぎょうじ} いろいろな^{たの} 行事^ふ が^ふ 楽しく^ふ なった。

ウ. ^{にんずう} 人数^ふ が増えて^{ぎょうじ} 行事^{たの} が^ふ 楽しく^ふ なくな^ふ った。

エ. ^{いま} 今^か までと^ふ 変わらない。

オ. その他 ()

質問6 ^{しつもん} 学校^{がっこう} が^ふ 大き^{せんせい} くなって^{にんずう} 先生^ふ の^ふ 人数^ふ が増^ふ えました^ふ が、^ふ その^ふ こと^ふ に^ふ ついて^ふ ど
^{おも} う^ふ 思^ふ いますか？ 次の^{つぎ} 中^{なか} からあてはまるものひとつに○をつけてくださ
い。

ア. ^{せんせい} たくさん^{はなし} の^ふ 先生^ふ と^ふ 話^ふ が^ふ でき^ふ て^ふ よ^ふ かつ^ふ た。

イ. ^{すく} 少ない^{せんせい} 先生^{かず} の^{ほう} 数^よ の^ふ 方^ふ が^ふ 良^ふ かつ^ふ た。

ウ. ^{いま} 今^か までと^ふ 変わらない。

エ. その他 ()

質問7 5年生と6年生にお聞きします。

クラブの数が増えましたがそのことについてどう思いますか？ 次の中からあてはまるものひとつに○をつけてください。

ア. クラブの数が増えてよかった。

イ. 増えない方がよかった。

ウ. 今までと変わらない。

エ. その他 ()

質問8 5年生と6年生にお聞きします。

児童委員会活動の数や種類が増えましたが、そのことについてどう思いますか？ 次の中からあてはまるものひとつに○をつけてください。

ア. 活発になってよかった。

イ. 今までの方がよかった。

ウ. 今までと変わらない。

エ. その他 ()

質問9 学校が大きくなったことについて、意見がありましたら、自由に書いてください。

ありがとうございました

学校統合に関するアンケート（教員用）

このアンケートは都心部4小学校の統合に伴う児童の様子の変化や学校運営等についての調査を行い、今後の本市の学校適正配置事業の参考とするものです。

調査は、現在資生館小学校に勤務されている教員のみなさま（全員）及び現2年生以上の資生館小児童（抽出、アンケート別葉）を対象として行います。

教員用アンケートは、設問1から設問19まであります。率直なご意見をご記入ください。

なお、小規模校（11学級以下）での勤務経験のない教員におかれましては、これまでのご経験や資生館小学校児童の様子などから判断しご回答をお願いいたします。

何卒ご理解とご協力をお願いいたします。

問1 前任校は都心部4小学校でしたか。

①はい。 ②いいえ。

問2 過去に小規模校（11学級以下）の学校で勤務した経験はありますか。

①はい。 ②いいえ。

問3 児童の数が増えることにより、学校全体の活気が高まったと思いますか。次の中からあてはまるもの1つに○をつけてください。

①活気が高まったと思う。 ②活気が高まったとは思わない。
③どちらともいえない。

問4 学年単学級から複数学級になって、児童の人間関係に影響が見られましたか。次の中からあてはまるもの1つに○をつけてください。

① 良い影響が見られた。 ② 悪い影響が見られた。 ③ どちらともいえない。
④ その他（ ）

問5 問4で③以外の回答をされた方はどのような影響があったかお書きください。

--

問 6 学習活動において、学級規模、学年規模が大きくなったことによる影響がありましたか。次の中からあてはまるもの1つに○をつけてください。

- ①良い影響があった。 ②悪い影響があった。 ③どちらともいえない。
④その他 ()

問 7 問 6 で③以外の回答をされた方はどのような影響があったかお書きください。

問 8 行事（運動会、学習発表会等）において、学校規模が大きくなったことによる影響はありましたか。次の中からあてはまるもの1つに○をつけてください。

- ①良い影響があった。 ②悪い影響があった。 ③どちらともいえない。
④その他 ()

問 9 問 8 で③以外の回答をされた方はどのような影響があったかお書きください。

問 10 行事以外の特別活動（クラブ、児童会活動）において、学校規模が大きくなったことによる影響はありましたか。次の中からあてはまるもの1つに○をつけてください。

- ①良い影響があった。 ②悪い影響があった。 ③どちらともいえない。
④その他 ()

問 11 問 10 で③以外の回答をされた方はどのような影響があったかお書きください。

問 12 学年単学級から複数学級になって、学年担任も複数になりますが、そのことについての影響があればお書きください。

問 13 統合し1学年複数学級が実現すると、小規模校の時と比べると学校全体で教員の数が増えますが、校務分掌上の負担に変化があったと思いますか。次の中からあてはまるもの1つに○をつけてください。

※スクールバス業務は除外してください。

- ①負担軽減になる。 ②負担はかえって重くなる。
③どちらともいえない。

問 14 学校行事の運営などの負担に変化があったと思いますか。次の中からあてはまるもの1つに○をつけてください。

- ①負担軽減になる。 ②負担はかえって重くなる。
③どちらともいえない。

問 15 学校規模が大きくなったことにより教育上の良い効果が表れていると思われる点がありましたら、ご記入ください。

問 16 学校規模が大きくなったことで、教育的効果が低下したと思われる点がございましたら、ご記入ください。

問 17 小規模校の統合は必要だと思いますか。次の中からあてはまるもの1つに○をつけてください。

①必要と感じる。

②必要とは感じない。

③どちらともいえない。

問 18 問 17 の理由をお書きください。

--

問 19 その他、統合について何かご意見がありましたらご自由にお書きください。

--

ご協力ありがとうございました。

※本アンケートは平成 17 年 3 月、適正配置事業実施の参考とするため札幌市教育委員会が実施したものです。